

第6講 映像がつくるイメージ【遠隔授業】

学術情報課程では映像を動画の意味で用いています。音声が含まれている場合は音声も含めることがあります。

1. 映画の誕生 音声ファイル1 media2025_6-2.mp3

1) 映画からネット動画へ

映像メディアのおもな技術について日常語をもとに4つに分けておく。すなわち、映画、テレビ、ビデオ、ネット動画である。メディア、つまり情報の伝達媒体としての特徴は下のよう考えることができる。記録映像や劇映画など内容の区別はしない。

映画：劇場や映画館で上映される映像であり一度に多人数がおなじ映像を視聴する。視聴できる作品は少数であり、供給側が選択したものに限られ、通常おなじ作品が数日以上のおいだ繰り返される。その間では作品を繰り返し鑑賞できる。生放送や生中継はできない。

テレビ：電波や有線回線で伝達可能な範囲で視聴可能な映像であり一度に莫大な人数がおなじ映像を視聴する。視聴できる作品はチャンネルの数により20世紀では少ない場合は1-3であったが、現在では数十以上となっている。1日を時間で区切り多数の番組（映画では作品）が放映され、視聴者の側にある程度の選択が可能。反面、視聴者の都合で繰り返し視聴することができない。生放送や生中継が可能である。

ビデオ：記録媒体（メディア）の映像を再生装置（ドライブ）によって視聴する。視聴には自家製の録画映像またはレンタル店からメディアを借用しておこなう。特定少数での視聴となる。作品の数は莫大で古い作品の視聴も可能であり、レンタル店はアーカイブの役割を果たしている。生放送や生中継はできない。メディアは磁気テープ、DVD、BRなど多数。8ミリなどフィルムを用いたホームムービーもここに含めて考える。

ネット動画：インターネットに接続可能であればあらゆる場所で視聴可能である。作品数は無数にあり、最新の作品から古い映画やテレビ番組も視聴できアーカイブとして機能している。生放送や生中継も可能で、就職せずに職業とすることもできる。誰もが作り手になり得る。ネット動画は総称であり、場合によっては法的な意味でのメディアはYouTubeやNetflixのようなサービス事業者となるかも知れない。

「映画からネット動画へ」は、メディアの登場の順番を意味する。交代ではないことに注意。また、おなじ時点、たとえば本日、でも世代や地域、階層などによって好んで視聴するメディアは異なる。

2) 映画の発明

映画の発明は19世紀末にフランスのリュミエール (Lumière) 兄弟によってなされた。先行して1891年にトーマス・エジソン (Thomas Edison) がキネトスコープ (Kinetoscope) という映像鑑賞機器を開発したが、箱をのぞき込む構造で一度に1人だけが鑑賞できるものだった。世界に普及したのは映像をスクリーンに投影するリュミエール兄弟のシネマトグラフだった。

右)エジソンが発明したキネトスコープ。長尺のフィルムが収められた、下から投影された映像を覗いて鑑賞した。撮影のために扉を開けている

Edison and the Kinetographic Camera

<https://www.davison.com/blog/edison-and-the-kinetographic-camera/>



シネマトグラフ (cinématographe) を用いた映画の有料上映会は1895年に初めておこなわれた。最初期の作品は「工場の出口」「ラ・シオタ駅への列車の到着」「水をかけられた散水夫」などがよく知られている。

右：リュミエール兄弟（左：兄の Auguste、右：弟の Louis）の肖像

Des fantômes à l'hôtel | Le Devoir

<https://www.ledevoir.com/opinion/chroniques/460861/des-fantomes-a-l-hotel>

3) リュミエール兄弟の映像

ネットで視聴可能な映像を見ておこう。もちろん無声映画（サイレントムービー）である。

The Lumiere Brothers' - First films (1895) | French Embassy in the U.S.

<https://www.facebook.com/franceintheus/videos/10154835743576315/>

紹介した3映像を含む初期の作品が収録されている。映像はデジタル修復されていない。

The Lumière Brothers - a legacy set in motion - YouTube

<https://www.youtube.com/watch?v=qdlVbGm1uK8>

個人制作のドキュメンタリー。初期作品のほか、関連する当時の写真、現代の研究者へのインタビューなど。

映画「リュミエール！」公式サイト <https://gaga.ne.jp/lumiere/>

作品には4K修復された映像108本を収録。予告編（Trailer トレイラー）にも日本の映像がある。

リュミエール兄弟の初期作品には仕事帰りや最新の鉄道の記録、家族の何気ない様子を記録したドキュメンタリー、いたづらを面白く演出したコメディ、土木作業の逆回し映像という特殊技法、カメラの高さの設定や焦点距離の異なるレンズの使い分け、計算された被写体の画面への出入り、子どもの目線での手持ち撮影など、現在に通じる技術や技法が見られる。舞台芸術や暮らしのなかでの笑い、発想などが先に存在し、それを映像化した内容がある一方、フィルムの逆回しという映像に特有な表現が映画の初期段階で既に用いられていた。

2010年代後半以降に新しく普及した映像技術には自動色付けや映画「リュミエール！」でも用いられた高画質化がある。技術そのものは以前から存在したが、普及したのがこの年代からである。下のサイトを参照。

120年以上前の「世界最古級の映画」が4K画質・60fpsに生まれ変わるとこんな感じ - GIGAZINE

<https://gigazine.net/news/20200205-deep-learning-4k-oldist-movie/>

[Actual 4K Scan] The Arrival of a Train at La Ciotat Station - Lumière Brothers - 1896. - YouTube

<https://www.youtube.com/watch?v=1FAj9fJQRZA>

[4k, 60 fps] Arrival of a Train at La Ciotat (The Lumière Brothers, 1896) - YouTube

<https://www.youtube.com/watch?v=J7IaguPTT-Q> 海賊版のよう。公式チャンネル不明

自動色付け | 4k 60fps | Arrival of a Train at La Ciotat | The Lumière Brothers, 1896 | - YouTube

<https://www.youtube.com/watch?v=cYRp9VRZk0c>



映画のはじまり 初体験

絶賛上映中!

スピルバーグもルーカスもジェームズ・キャメロンも
クロサワも小津も、映画はここから始まったー

4Kデジタルで蘇るく映画のはじまり>>
リュミエール兄弟が世界で初めて上映した映画の撮影秘話、
そして今も変わらない生き生きとした人々の姿、
人間賛歌にあふれる映画の原点がここに!

SELECTION OFFICIELLE
CANNES CLASSICS
FESTIVAL DE CANNES
カンヌ国際映画祭クラシック部門上映
(2016年トロント国際映画祭正式出品
(第30回東京国際映画祭特別上映作品)

好評デジタル配信中

2018年4月27日(金)
DVDリリース!

BERTRAND TAVERNIER et L'INSTITUT LUMIÈRE PRÉSENTENT AVEC SORTIES D'USINE PRODUCTIONS
LUMIÈRE!
リュミエール!
UN FILM COMPOSÉ ET COMMENTÉ PAR THIERRY FRÉMAUX

2. 大本営発表

1) 大本営発表

大本営発表 ①大本営 [戦時の戦争に関する最高の指揮監督機関] が発表する情報②転じて、権力を持つ側が一方的に流す情報を批判的にいう語 (デジタル大辞林)。現代ではもっぱら②の意味で使う。当時の広報手段、つまりマスメディアは新聞、ラジオ、映画だった。

大本営発表 - Wikipedia

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E6%9C%AC%E5%96%B6%E7%99%BA%E8%A1%A8>

YouTube「第79号帝国遂に起つ」より

ミッドウェー海戦の過大戦果を掲載した朝日新聞 <http://kh16549.blog.fc2.com/blog-entry-168.html>

「世界の戦争・歴史ブログ アリュージョンの戦い・アメリカに上陸していた日本軍」より

2) ニュース映画

「大本営発表」の音声が入った映像は下のとおり。白黒映像で独特の抑揚で読み上げる男性の声が印象的である。が、このようなナレーションは戦後のニュース映画でも継続し、1964 (昭和39) 年の東京オリンピックの映像でも軟らかい発声であるが確認できる。余談であるが1970年代の歌謡番組の司会者の話し方にも受け継がれていた。

第79号帝国遂に起 [た] つ <https://www.youtube.com/watch?v=EK9fnzIYI2M&t=27s>

オリジナル映像は下の「NHK戦争証言アーカイブス」で視聴可能

ニュース映像 第79号 | ニュース映像 | NHK 戦争証言アーカイブス

https://www2.nhk.or.jp/archives/shogenarchives/jpnews/movie.cgi?das_id=D0001300464_00000&seg_number=001

YouTubeの映像はチャプター3「隠忍実に8ヶ月帝国遂に起つ」の部分

戦時体制下では映画の上映に際してニュース映画を上映することが強制されていた。国会図書館のまとめによると戦後も白黒テレビが普及する1960年代まで盛んに上映され、完全に廃止されたのは1990年代以降らしい。

ニュース映画 | 調べ方案内 | 国立国会図書館 https://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/theme-honbun-602011.php

3. プロパガンダ

1) ベルリンオリンピックの記録映画

プロパガンダ propaganda [ロシア語] 特定の考えを押しつけるための宣伝。特に、政治的意図を持つ宣伝 (デジタル大辞林)。

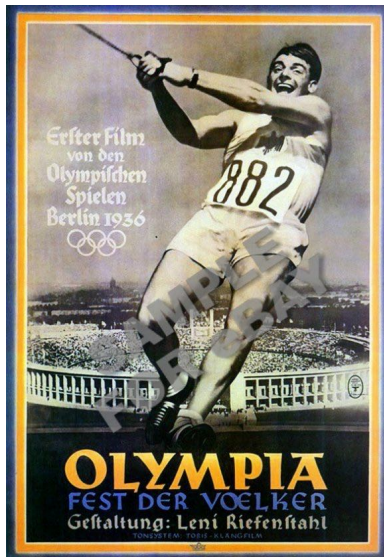
ナチス (国家社会主義ドイツ労働者党 Nationalsozialistische Deutsche

Arbeiterpartei: NSDAP, Nazi、ナチス Nazis は複数形) は、宣伝に力を入れ、きわめて優秀な映画を作成し、国威発揚や国民意識の単純化に利用した。内容や目的は別にして、映像表現や技法は時代を超えたお手本として存在する。



ナチスは優れた写真も多数残した。カラー作品も見られ、当時の日本とは大違いである。ヒューゴ・イエガー (Hugo Jaeger) 撮影 <https://dailynewsagency.com/2016/06/01/rare-wwii-color-photographs-taken-b2n/>

返上した1940 (昭和15) 年 (皇紀 [神武天皇の即位年を元年とする年の数え方] 2600年) の東京オリンピックの前の回は、ナチス・ドイツによる1936年のベルリン [ドイツの首都] オリンピックだった。聖火リレーもこの時初めて実施されている。アテネからベルリンまでヨーロッパを縦断する現在の道のりは2,300km。ドイツ民族がギ



ロシア古典古代の正統な後継者という演出という。オリンピックの記録映画、一部に演出上の再現など含む、が「民族の祭典」第1部（オリンピア）である。3年後の1939年にドイツがポーランドに侵攻第二次世界大戦が始まる。

左：「オリンピア」のポスター 中：「意志の勝利」のポスター
http://collectifhistoirememoire.org/Pages/57_Hitler-et-Leni-Riefenstahl.html
 右：リーフェンシュタール監督 ポスターはリンク切れ
<https://utkgermancinema.wordpress.com/german-directors/leni-riefenstahl/>

1936年ベルリンオリンピック - Wikipedia

<https://ja.wikipedia.org/wiki/1936%E5%B9%B4%E3%83%99%E3%83%AB%E3%83%AA%E3%83%B3%E3%82%AA%E3%83%AA%E3%83%B3%E3%83%94%E3%83%83%E3%82%AF>

「民族の祭典」第1部（オリンピア）(1936) <https://www.youtube.com/watch?v=H3LOPhRq3Es>

オリンピア（映画）Wikipedia [https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AA%E3%83%AA%E3%83%B3%E3%83%94%E3%82%A2_\(%E6%98%A0%E7%94%BB\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AA%E3%83%AA%E3%83%B3%E3%83%94%E3%82%A2_(%E6%98%A0%E7%94%BB))

映画の見所は、最初から聖火の点火に至る分。ギリシア彫刻のように美しいドイツ人アスリートが強調されている。いまのネット動画と違い1シーンが長い。苦痛を感じるなら早送り、時代の空気を感じるならそのまま見る。

2) ナチス党大会の記録映画

1934年にニュルンベルク（Nürnberg）で開催された第6回党大会の記録映画。ヒトラーが搭乗した飛行機と同じ目線の空中映像、ヨーロッパ各地からの民族の集合とヒトラーへの賞賛、たくましく明るい勤労青年、統率のとれた集団行動の垂直移動カメラでの撮影、ヒトラーの演説、副総統ヘス（Rudolf Heß）の「ヒトラーはドイツだ、ドイツがヒトラーであるように」の締めくりなど個人崇拜と全体主義的イメージのなか、群衆のなかの個人のクローズアップ、総統が母子に声を掛ける「人間的な」シーンの挿入など撮影技法や演出に優れ現在も模倣が続く。ちなみに Triumph は下着メーカーのトリンプと同じ語。長いので、プレビューを確認しつつ所要所の視聴でもよい。監督はオリンピアとおなじリーフェンシュタール（Leni Riefenstahl 1902-2003）である。

「意志の勝利」 Triumph des Willens (1935) <https://archive.org/details/TriumphOfTheWilltriumphDesWillen>

数年前までYouTubeにもあったが倫理規定違反として削除された。歴史的資料の過剰な規制の例。

意志の勝利—Wikipedia <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%84%8F%E5%BF%97%E3%81%AE%E5%8B%9D%E5%88%A9>

レニ・リーフェンシュタール Leni Riefenstahl 1902-2003

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AC%E3%83%8B%E3%83%BB%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%83%95%E3%82%A7%E3%83%B3%E3%82%B7%E3%83%A5%E3%82%BF%E3%83%BC%E3%83%AB>

3) ソ連国歌

ソ連（ソビエト社会主義共和国連邦）の国歌は、技術立国、労働者が主役、多民族共生という社会主義国の建前を映像化したもの。レーニン個人崇拜もしっかり含まれている。YouTubeにはさまざまなチャンネルが取り上げているが多くは独自編集を経たもので典拠不明である。下は実際にソ連の国营テレビが放送していた映像。

Soviet Anthem 1984 - YouTube <https://www.youtube.com/watch?v=Th-Z6le3bHA>

【レポート3】

課題：次の映像から1つを選び、感想文、コラム、映像批評のいずれかを提出する

The Lumiere Brothers' - First films (1895)、The Lumière Brothers - a legacy set in motion、「民族の祭典」第1部（オリンピア）、意思の勝利、第79号帝国遂に起つ、第79号 | ニュース映像 | NHK戦争証言アーカイブス、ソ連国歌、

提出方法：メール本文に記載。本文800字まで 件名：メディア論2025レポート3 [3は全角]

提出期限：6月4日（水） 遅れた場合は受け取らない

回答は所属氏名を消して投影する。投影が不可の人はその旨を明記ください。

1行目 学科、学籍番号、氏名を記載する

2行目 選択映像と文章の種別を記す 例) 意思の勝利、コラム

3行目 自分で付けたレポートのタイトルを記す。内容を的確に示し読みたくなるように

4行目 本文は4行目から開始する

Breakfast at Tiffanys Opening Scene

https://www.youtube.com/watch?time_continue=1&v=DC5RtcypOqE&feature=emb_logo

【おまけ】

1) 映画の人種差別的な描写

「ティファニーで朝食を」（1961）は、著名な作品で現在もオードリー・ヘプバーンのポスターやそのポーズが国内でも使われる。が、テレビで放映されることがない。ネットでは日本人が嘲笑的的として描かれているからと噂されている。動画を自分の目で確かめて欲しい。

この映画は2020年11月18日に放送され以降も再放送されている。問題のシーンも含まれていたよう。

「ティファニーで朝食を」プレミアムシネマ-NHK <https://www.nhk.jp/p/ts/K8649395M1/episode/te/Y6QGW1G8JL/>
海外反応!! LOVE JAPAN/あの有名映画「ティファニーで朝食を」は日本人差別映画だった! ?

最後から2つ目の映像が詳しい。「ティファニー」は最終パート8分36秒から <http://blog.livedoor.jp/zscj/archives/51919410.html>

2) アナログYouTube

デジタルデータは情報とメディアが分離している。だからネット回線（＝電話線）で信号（＝情報）だけを送信して手元の装置で再生ができる。他方、アナログデータは情報とメディアが一体化している。情報を再生するにはメディアそのものを再生装置の元に運ぶ必要がある。大阪の千里万博公園にある国立民族学博物館（みんぱく）の「ビデオテーク」はオンデマンドビデオをアナログデータで実現した装置。巨大な書庫からビデオカセットをベルトコンベアで再生装置に運んでいた。視聴ブースは再生装置とは離れた場所にあった。機械式なので大掛かりで高度な技術や製品が必要だった。6/29の授業では民博から入手した映像「ビデオテーク」を見る。なお、みんぱくの初代館長の梅棹忠夫は鑑賞の邪魔になるとして映像を展示室から離してブースを作った。

動画を見る人たち。実物を見ずに遠巻きにモニターを見つめ、番組が終わると移動する。国立科学博物館「古代DNA展」

